

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年1月30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470104484		
法人名	医療法人社団 江島医院		
事業所名	グループホームもみじの里		
所在地	広島市南区宇品御幸1丁目11-9 (電話) 082-253-0067		
自己評価作成日	平成29年1月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470104484-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3470104484-00&amp;PrefCd=34&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年1月27日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

今年度も町内の方にご協力いただき、お花見やお祭りなどの行事にボランティアとしてお手伝いをして頂いています。またクリスマスには、子ども会のクリスマス会にご招待頂き、子供たちと一緒に吹奏楽の演奏を楽しみました。また、グループホーム主催で外部のボランティアの方による音楽会を開き、町内の方に来ていただいたり、火災訓練に参加いただいたり、色々な形で地域との交流を深めています。入居者の高齢化に伴い、嚥下の悪い方のために、嚥下食の工夫を色々と考え、提供を行っています。また、嚥下をスムーズに行うトロミ剤の使用のついての勉強会を開き、誤嚥を防ぐように注意をおこなっています。また、今年度もご家族のご希望に沿って、グループホームでの看取りを行いました。ご自宅のように、ご家族との時間を大切にいただきながら、安らかに最後まで過ごしていただけるように心がけています。利用終了後も、ご家族にアンケートをお願いし、待遇やサービス向上の為につなげています。今後も終の棲家として、安心してグループホームで過ごして頂けるように、さらに体制を整えていくつもりです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

交通至便な宇品の閑静な住宅街の中、メイン道路沿いに立地する当事業所は、子供会のクリスマス会で吹奏楽を共に楽しむなど、世代を超えた交流の継続をはじめ、季節の町内会行事にも積極的に参加し、豊かな関係性を育みつつ、地域ぐるみで利用者の生活をハートフルに支援している。特に、利用者の立場になって、食事の取りやすい支援方法や食事形態の工夫など、一人ひとりに合わせた細やかな配慮に心がけながら、家族との大切な時間を職員、関係者で共有している。医療機関のバックアップ体制も充実し、最期までその人らしく安心して過ごせるように、スタッフ全員で温もりのある心のこもったケアを心掛け、利用者や家族にとって、我が家のようなグループホームづくりに日々努めている事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	ご利用者、お一人おひとりの尊厳を守り、豊かで素晴らしい人生を送って頂けるよう、業務やミーティングを通して理念を共有し、話し合いを持ち、日々実践できるよう心がけています。	理念や目標に加え、五つのバリューワードのスローガンを信条とし、笑顔で挨拶することなど、各々の心構えも含め、振り返りながら日々のケアにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入り、近隣の方々と交流できるよう努めています。地域のお祭りなど、行事や子ども会主催のクリスマス会に参加させていただいています。また、外部のボランティアの方を招いて、グループホームで音楽会を開催し、地域の方にも参加していただきました。	長年培った地域との関係性を継続しながら、多彩な季節行事へ積極的に参加し、交流を深めている。町内秋祭りでは神輿上げを見学し、子供たちから利用者へ手作りのプレゼントを手渡しする姿があったり、花見行事には町内から多くのボランティアの協力を得るなど、互いに親密な関わりを育んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	町内の方に介護教室に参加いただき、理解を深めたり、地域包括支援センター作成の、支えあいマップにグループホームを紹介させていただいています。また、お電話等の相談を受けたり、いつでも気軽にグループホームを見学していただけるように対応しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、町内会長や副会長また、地域包括支援センターの方やご家族、スタッフ、施設長等が参加し、グループホーム内の報告や意見交換を行っています。会議で話し合った内容を検討し、グループホームの改善に役立てています。	隔月に開催される当会議には、多方面からの参加を得て、日常の様子や行事などの報告及び意見交換を行い、より良い運営につながるよう、会議を活かした取り組みがなされている。	
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括支援センターの方に、地域のお年寄りの方の情報を教えていただいたりしています。また、同じ区のグループホームの方との話し合いの場を作ってください、意見交換をさせていただいています。	地域包括支援センターの職員が来訪し、オレンジプランに関する勉強会を開き、スタッフとの共有を図っている。地域包括支援センター作成の「支えあいマップ」に紹介され、交流の輪を広げ、地域とのかかわりを深めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間の職員体制が少ない時間帯以外は、玄関の施錠はせず、ご利用者ご自分の家庭のように、自由に生活出来るように心がけています。徘徊の危険のある方には、GPSを携帯していただいています。身体面だけでなく、ご利用者への日々の言葉かけにも十分気をつけるように心がけています。	定期的な研修はもとより、なるべく制約を加えない見守りによるケアに努め、不具合を未然に防ぐ工夫がなされている。利用者が心身ともに健全で過ごせるように、スタッフ間で意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。	継続的に外部研修に参加し、その資料を利用し、ミーティング等で話し合いをしたり、虐待や拘束にあたる内容を職員全員で確認できるようにしています。また、職員にむけてのアンケートを行い、自己評価してもらう機会をつくっています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	資料などを入手し、必要時には関係者と話し合い、支援を行っています。今年度はグループホーム内で成年後見制度について勉強会を行い、グループホーム内で後見人がいらっしゃる方と、どのように連携をはかったらよいかを勉強しました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関しては、ご利用者やご家族に十分な説明を行い、ご理解いただくよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族にお電話でご要望をお聞きしたり、ご意見箱を設置したり、ご面会時や運営推進会議で、直接ご意見やご要望を聞かせていただいています。聞かせていただいたご意見は、できるかぎり反映させていただきます。	主に面会時や運営推進会議などで要望、意見を伺い、遠方の家族へは電話等でコミュニケーションを図り、それらを集約検討し、より良いケアに向けて反映させている。職員のきめ細やかな対応は家族の安心につながり、良好な関係を築いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	1ヶ月に1度のグループホーム全体のスタッフミーティング等で、職員の意見や提案を聞き、できるかぎり反映できるように心がけています。	毎月のミーティング時に活発に意見交換し、利用者への関わり方や介助法についての相談や、家族からの意向を共有するなど、利用者の体調コントロールの改善も含め、職員の意見や提案をサービス向上に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の努力や実績、勤務状況を把握し、それらを基に、個々に評価するように努めています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	各自のレベルに合った研修に積極的に参加を促し、資格(介護福祉士・介護支援専門員)を取得するようにアドバイス・援助しています。また、資格取得のための実務者研修へ出席のために配慮し、勤務調整を行っています。また、今年度は新人の職員にも外部研修に行ってもらったり、それぞれの職員の状況に合わせた研修に参加し、施設に学びを持ち帰り、共有しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同じ地域のグループホームの方と話し合いをしたり、他のグループホーム主催の研修に参加し、意見交換をさせていただいています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前に、ご本人やご家族にグループホームへ来ていただき、普段の様子やご要望など細かく伺っています。また、入所前の担当のケアマネジャーの方や主治医の先生にも情報をたくさんいただけるようにご協力頂き、職員間で情報を事前に共有し、安心して入所いただけるように心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所前より、ご家族からご相談等を伺い、何度もお話し合いを重ね、より良い信頼関係が築けるよう努めています。入所にあたり、不安がぬぐい取れない場合には、仮入所の導入をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人様やご家族のご相談内容に合わせ、職員は主治医、他サービス事業者と連携をはかり、柔軟に対応するように努めています。定期的に外出希望がある方や、以前よりデイサービスを利用されていた方に対しては、外部のデイケアサービスの利用を支援し、要望に応えられるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご利用者と一緒に時間を過ごしながらか、喜怒哀楽を共にし、また、人生の先輩として色々教えて頂きながら、暮らしを共にする者同士の関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者により良い支援が出来るよう、ご家族と職員とのカンファレンスを行い、ご要望やご意見を伺い、ケアプラン等に活かしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご家族のご協力のもと、自宅への外出や外泊、またスタッフと近所のスーパーへの買い物や、馴染みの美容室へ出掛けられるよう支援しています。	年末年始に、利用者の孫やひ孫が訪れたり、敬老の日には家族ほか、日本舞踊・フォークダンス・詩吟を披露するなど、馴染みの人達との時間を大切にしている。オカリナやキーボード演奏などの、音楽ボランティアの来訪も利用者の楽しみとなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	毎日の日課として、出来る方を中心に家事へ参加していただいたり、2F、3F共同でレクレーションをしたりし、フロアを気軽に行き来できるよう心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了しても、必要に応じてお手紙・電話等にてご連絡をし、また、ご要望があればいつでも支援できるように努めています。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	お一人おひとりの生活スタイルを大切に、その方に合わせた日課の構築に努めています。お習字をされていた方にはお習字を、手芸がお好きな方には刺し子や編み物を、外出がお好きな方には散歩やドライブに出かけるなど、できるかぎりご希望に沿えるように心がけています。常にご本人の立場になって考えられるよう努めています。	発語しにくい方には、ボディメッセージ（表情・しぐさ・視線など）から意向を汲み取り、タイミングも観ながら、コミュニケーションに努めている。普段のさりげないふれあいの中で、各々のライフスタイルを大切にしながら、思いや意向を個別ケアに取り入れている。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所時より、ご本人様のこれまでの生活歴等できるだけたくさん情報収集を行ったり、日々の生活の中での会話で、お好きな物や趣味などを伺い、毎日の生活に生かせるよう配慮しています。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員は毎日の生活の中で、バイタルや水分・食事量や排便のチェックによる健康管理を行い、観察等により心身状態を把握するように努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護計画は入所時より定期的に作成しています。ケアカンファレンスにはご本人、ご家族、主治医等の意見を反映させ、状況に応じて話し合いを設け、柔軟に変更できるようにしています。	担当スタッフが、日々知り得た情報をアセスメントに取り入れ、利用者、家族、医師などの意見を加味しながら、関係者共々でニーズに合わせたプランを立案している。カンファレンスなどで、個々のケースについて話し合い、毎月モニタリングを行い、見直しを重ね、より良いサービスにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに合わせて、個別記録を作成しています。日々の様子をしっかり把握できるよう、薬、歩行状態、体調の変化等を記載し、職員間で情報を共有し、より良いケアの実践に活かしています。また、一ヶ月毎にモニタリングをおこない、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人やご家族のご要望に応じてデイケアサービスを利用していただいたり、母体の医院と連携をはかり、必要時に往診や通院も出来るようにしています。その他にも、整形外科・皮膚科・歯科・鍼灸などの多様な訪問を受け入れて、必要に応じて利用いただいています。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内の方にお手伝いいただいて行事を行ったり、町内主催の催し物に参加させていただいたりしています。また、同じ区の警察や消防の方とも連携をはかり、安全に生活できるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご利用者、ご家族の納得された先生に主治医になって頂いています。母体の医院や歯科医、整形外科医、皮膚科の往診も定期的に行われています。又、必要に応じて受診の支援もしています。	ほとんどの利用者が協力医にかかり、内科や専門医療機関の訪問診療が定期的にあるほか、緊急時にも24時間体制で対応している。感染症対策について、職員間で意識を高め、健康管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働  介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	母体の医院に、ご利用者の情報を1日1回送り、主治医の指導をうけ、健康管理をしています。職員は、いつでも母体の医院に相談出来る体制が整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者が安心して治療を受け、早期に退院できるように、母体の医院と入院先の病院との連携が出来ており、職員も指導を受けながら、受け入れ体制を整えています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に、ご家族に対してターミナルケアについてお話をしています。また、重度化した場合、主治医よりご家族へ状況説明を行いご家族の意向をお聞きし、今後の方針を決めさせていただいています。	重度化した場合、その都度、家族や関係者と話し合い、出来る限り個々の思いに寄り添いながら、最期までその人らしく過ごせるようチームで取り組んでいる。最近もその事例を経験し、看取り後の振り返りとして、家族にアンケートを取り、行き届いたサービスにつなげる配慮がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変の場合は、必ず母体の医院に連絡し、指示を仰ぎ、往診もしていただいています。また、AEDを設置し、緊急時に使用できるようになっています。救急の手当等の訓練ができる機会をつくる予定です。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	グループホームでの火災訓練は、年2回行っています。町内会と災害相互応援協力協定書を交わし、災害時の協力体制を強化しています。	防災訓練には近隣住民も参加し、定期的に避難誘導や経路の確認、防災具・備品の点検を行っている。一時避難場所としての提供も含め、町内会と相互応援協力の関係構築がなされている。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	お一人おひとりを尊重し、言葉かけや対応についても、親しみの中にも節度ある言葉遣いを心掛けたり、誇りやプライバシーを損ねないように、十分に配慮するようにしています。	利用者一人ひとりの尊厳を護りながら、日々の何気ない声掛けや接遇に留意している。ライフスタイルやプライバシーにも配慮し、願いや思いを叶える個別ケアに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	いろいろな場面で、ご本人の思いや希望をお聞きし、日常を送って頂くようにしています。難聴や発語困難などにより、コミュニケーションが難しいご利用者にも、職員が思いや希望を表せるように働きかけ、自己決定出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	お一人おひとりの生活リズムを把握し、起床や就寝時間もその方のペースに合わせて、お食事の時間も変更し、ゆっくり食べて頂けるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	お化粧品・髭剃り・整容・ネイルケアなど、その方にあった支援をしています。理・美容院についても、希望時になじみの美容院へ行っていただいたり、訪問美容の方に来ていただいたりしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の盛り付けや味見、後片付けなどに参加して頂いています。好き嫌いに合わせた副食を用意し、主食はご飯やお粥、またパンなど個々に合わせたお食事をご用意させて頂いています。	配食サービスでの提供だが、時には菜園で採れた野菜などが食卓を飾り、旬のものを取り入れながら食事を楽しんでいる。水曜日は麺類などのリクエストメニューを、職員の手作りで提供している。特に、個々に合わせたミキサー食ほか、食事形態の工夫やトロミの加減など嚥下しやすい方法について、きめ細やかな配慮がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	毎日、厳選された新鮮な食材を使用して、味や栄養バランスを考えて作って頂ける、配食サービスを利用しています。水分補給については、毎日、何をどのよう摂取されたか嗜好も考慮し、水分管理表を作成し記載しています。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	歯科医師とも連携をはかり、お一人おひとりに合わせた口腔ケアに関する指示を頂き、ご利用者と一緒にケアに取り組んでいます。義歯洗浄剤使用も個別に合わせて対処しています。1ヶ月に2回歯科の往診で専門的な口腔ケアをしていただいています。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	職員は、個々のご利用者の排泄間隔やパターンを理解し、プライバシーに配慮した声掛けや介助を行っています。	なるべくトイレでの排泄を行い、個々のタイミングやパターンを見計らって、トイレ誘導している。コントロール表の活用で、個々の自然な排泄を促し、廊下を歩くなどの筋力低下を防ぐ工夫もしている。	
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便表を作成し、個人記録と共に毎日チェックしています。軽い運動や排便に繋がる飲食物の提供など、お一人おひとりに合った支援を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	順番や曜日等決めず、お一人おひとりのご希望を取り入れながら、入浴して頂けるように支援しています。季節を楽しんで頂けるように、ゆず湯や菖蒲湯等を実施しています。	基本は午後からの設定だが、曜日や時間に捉われず、出来る限り要望に合わせ、リラックスして入浴できるよう配慮している。心身状況により、足浴、手浴、清拭でも清潔を保ち、時には、ゆず湯・菖蒲湯など、季節感を味わえるよう工夫がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣に合わせ、夜間のみでなく日中も安心して休息出来るように対応しています。体調不良時にも、少しでも安楽に過ごせるように、室温や湿度等の管理も行っています。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	ご利用者、お一人おひとりの既往病や服薬についての一覧表を作成しています。個別ケースにも記載し、全職員が情報の共有が図れるようにしています。必要があれば、薬剤師に相談できる環境を作っています。また、定期的に薬剤師の方と個々の服薬状況・体調確認など、一緒に行なっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	ご本人の生活歴や力を活かせる役割をもてるように支援しています。出来る限り、ご本人のご希望や趣味に合わせ、お散歩やお習字、塗り絵や手芸、野菜作りやお菓子作り等をして頂いています。また、月に一度、生け花教室を開催し、お花のお好きな方に参加いただいています。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	お一人おひとりのご希望に合わせて、近所に買い物に出かけられたり、屋上や近くの公園へ散歩に出かけたり、平和公園や宇品港などへドライブに出かけたりもしています。また、帰宅願望のある方には家の前まで一緒に行き、安心につながる様に支援しています。	日常的な散歩に加え、季節を感じるドライブに出かけるなど、外出の機会を設けている。屋上の広いスペースは日当たりも良く、日光浴や気分転換の場所として活用している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	数人の方は、ご家族の希望により、お部屋にお金をおかれています。ご本人が安心して、ご自分でお買い物が出来るように、職員が支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人のご希望時に、ご家族に電話をかけたり、お手紙を出せるように支援しています。また、毎月、職員による手書きのお手紙をご家族へ送り、ご利用者の様子をお伝えしています。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関や廊下の壁面を利用し、季節感を感じられるように飾りつけを行っています。ご利用者のくつろぎの場所である食堂やソファ等の共用の空間は、換気や湿度調整を行い、音楽を流し、快適にリラックスして過ごして頂けるようにしています。	事業所全体がバリアフリーで、安全性に配慮され、家庭的な雰囲気の設えである。屋上に菜園を設け、季節の野菜や花を育て、利用者と一緒に収穫を楽しんでいる。宇品の花火観賞に地域の人達も訪れる広い屋上は、利用者と共に夏の夜を楽しむ、集いのスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	畳コーナーや廊下のソファや食堂席を上手に利用し、独りになられたり、気の合った利用者同士で過ごしていただけるように、工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入所時には、必ずご自宅で使い慣れた物を持参して頂き、ご自宅の住み慣れたお部屋に、より近い状態で過ごして頂けるように工夫しています。	居室入口には、各々が識別しやすいように写真や折り紙などで飾った表札を掛けている。個々のニーズに合わせ、家具の配置を変えたり、職員が衣替えを行うなど、居心地よく落ち着いて過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下やトイレには手すりを設置をし、グループホーム全体がバリアフリーへの配慮をしています。個々の居室入口に目印をしたり、トイレや洗面所にも案内プレートを設置し、ご利用者が迷われないように工夫しています。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームもみじの里

作成日 平成29年3月22日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	救急時の応急手当や初期対応の訓練を定期的に行う機会がなかなかもてない	一番必要とするAEDの使い方や誤嚥等の応急手当の方法の講習を受ける機会を作る	消防の方に来ていただきホーム内で応急手当や初期対応の講習を受ける	1年
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。